

平成 29 年 12 月 5 日 (火)

平成 29 年度 学校関係者評価報告書

学校法人 新潟総合学院
新潟会計ビジネス専門学校
学校関係者評価委員会

学校法人新潟総合学院新潟会計ビジネス専門学校の学校評価委員会は平成 28 年度学校運営・教育活動に関する平成 29 年自己点検・自己評価報告書の結果について学校関係者評価を実施いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

開催概要

1. 開催日時 平成 29 年 12 月 1 日 (金) 16:00～18:00
2. 開催場所 新潟会計ビジネス専門学校 1 階応接室
3. 議 事

< 次 第 >

- I. 開会
- II. 各委員自己紹介
- III. 資料の確認
 - (1) 資料 1 学校情報
 - (2) 資料 2 2,017 年度第 1 回 授業アンケート総括
- IV. 議事
 - (1) 教育理念・目標 学校自己評価報告書
 - (2) 学校運営 学校自己評価報告書
 - (3) 教育活動 学校自己評価報告書
 - (4) 学修成果 学校自己評価報告書
 - (5) 学生支援 学校自己評価報告書
 - (6) 教育環境 学校自己評価報告書

(7) 学生の受入れ募集・・・学校自己評価報告書

(8) 財務・・・学校自己評価報告書

(9) 法令等の遵守・・・学校自己評価報告書

V. その他

(1) それぞれ業界環境の変化について

(2) 人材育成のスタンスについて

～日本にあるのは、「人と技術」 「人」の育成に、すべてがかかっている～

(3) 懇親会の確認

学校関係者評価委員会

平成 29 年度 評価委員会 出席者名簿

平成 29 年 12 月 1 日(金)

No	会社名	委員		出席状況		備考
		役職	氏名	会議	懇親会	
1	石田経理事務所 (税理士・公認会計士)	所長	石田 直樹	○	○	
2	株式会社MGNET	代表取締役	武田 修美	○	○	
3	TSC 本間秀修事務所 (社会保険労務士)	所長	本間 秀修	○	×	
4	新潟会計ビジネス 専門学校	副校長	平 博之	○	○	
5	新潟会計ビジネス 専門学校	教務部次長	長谷川 慎一	○	○	
6	新潟会計ビジネス 専門学校	事務局	阿部 直樹	○	○	書記

出席者数	6	6
------	---	---

新潟会計ビジネス専門学校 学校関係者評価委員会における評価・指摘事項等

～学校運営・教育活動に関する学校自己評価報告書について～

評価方法	適切…4	ほぼ適切…3	やや不適切…2	不適切…1
------	------	--------	---------	-------

1. 教育理念・目標 【評価：4】

・人間力あふれる会計のスペシャリストを輩出するための取り組みを期待している。AIが進めば進むほど事務・経理の分野で求められている人材は、管理会計を学んで、理解している人材が求められている。簿記の検定でも最高峰の日商簿記1級や全経簿記上級を目指して今の若い人たちには頑張ってもらいたいと思っているし、そのための指導を貴校に求めたい。

・職業人講話の機会を積極的にもうけ、今の世の中で必要とされている人材を若い人たちに肌で感じてもらいたいし、そのため今の自分に足りないものを考えそれをおぎない身につけていくための行動をとるように心がけてほしい。

専門教育がメインとなる専修学校において、学年集会にて人として大切なことを学べる、考えるきっかけとなる時間があるのは評価できる。今後とも継続してほしいし、職業人講話等で今後とも協力していきたいと考えている。

2. 学校運営 【評価：4】

・教育活動等に関する情報公開をホームページやSNS等で情報発信することで、企業求人とのマッチングを推進してほしい。また、会計の大切さを伝えるための取り組みにより一層努力をしてほしいと考えている。

3. 教育活動 【評価：3】

・資格取得奨励制度の活用により自己研鑽の継続をお願いしたい。人を育てる立場であるので、さまざまな研修へ参加することで、また、本を読むこと、プライベートの生活を充実させることで人間的な魅力を高めることにも心をくばってほしい。

4. 学習成果 【評価：4】

・検定取得実績の高い合格率、退学を出さない学校のスタイルを高く評価したい。

5. 学生支援 【評価：4】

- ・全員の進路が決定できるよう引き続き、ひとりひとりサポートを行っていただき、県内企業を経理の立場からしっかりと支えられる若い人たちを多く輩出してほしい。
貴校の進路実績を高く評価している。

6. 教育環境 【評価：3】

- ・学校だからこそできる研修会や合宿、そしてさまざまな行事やイベントに積極的に参加していることを評価している。人と人とのつながりの中で仕事をすすめていくケースがより多くなっている現状からも行事やボランティアに積極的に取り組む人を企業は求めている。

7. 学生の受入れ募集 【評価：3】

- ・中学生向けの職業教育や、県内高校でのマナー講習や意識啓発講演会などによる働きかけが募集につながるよう、引き続きSNS等やホームページを充実させ会計や経理、そして事務のお仕事に興味を若い人たちがもてるよう努力してほしい。優秀な経理人材の不足は日本の企業の死活問題である。
SNSの活用に関して委員としても協力できることはないか模索しているので、またいつでも声をかけてほしい。

8. 財務 【評価：4】

- ・自己評価についての意見・指摘なし

9. 法令等の遵守 【評価：4】

- ・自己評価についての意見・指摘なし

10. その他

上記、学校関係者評価委員からの指摘事項等については、改善策を検討するとともに次年度の目標設定や具体的な改善を図り、教育の質向上に一層の努力をすることを確認。

また、自己評価に関する項目以外に会議で話題になった内容については別紙『学校関係者評価委員会～業界の状況・人材教育のスタンス～』のとおり

□ 平副校長

本日は、複数回重ねていることもあり、私ども学校のトピックスとしては、6年ぶりに簿記競技で全国大会日本一になれたこと。就職指導関係に関しては、長谷川より報告する。それよりも各諸先生方より、仕事や人材の観点から教育や課題について伺って、当校の教育等に生かしていきたい。また、事務局員の阿部が参加することから、懇親会を含め、事業推進の観点から、様々なご意見を頂戴したい。

全国大会としては、広島校の歴史・伝統、在籍人数、また、教育者の交代によって、より簿記の大会に向けた取り組みが強化されていたため、非常に苦戦を強いられた中での日本一の獲得であった。

では、進路指導室の長谷川より、状況を報告する。

□ 長谷川 進路指導室長

今年度の状況としては、就職を希望している学生は53名在籍。うち49名が内定している。残りの学生についても就職活動を継続している。この実績は前年度とほぼ同様の数字となっている。

ただし、内定の傾向としては7月をピークに7割、8月に8割という状況であったが、今年度にはピークが9月になるなど、少し遅い傾向にあった。求人数については、全国ニュースなどでは今年度は良いという報道ではあるが、NSGグループとしては、昨年度に比べ減少傾向にある。事務の求人数に対しても、やや減っているが求人内容については、待遇が良くなっており、具体的には給与が良いなどが見られる。

□ 平副校長

では、さっそく次第に従って進める。まず、それぞれの業界についてここ数年の変化、仕事環境、必須知識などについて石田先生より報告いただきたい。

□ 石田先生

経済同友会の関係で附属中学校等においてパネルディスカッションを実施している。その中で感じるのがAIに関して、必ず議題に上がってくるということ。自分たちが就職するころにはAIによって会計事務所の仕事がなくなるのだと認識しており、会計に限ったことではないが、今後は付加価値の高い仕事をしていかなければ生き残れないと認識している。

実際の会計事務所で伝票を預かり、会計事務所で入力するなどの世界はかなりAIに浸食されている。実際に銀行口座で直接データを取り込んできて、学習させることで仕分けができるようになっている。単純な入力作業などはかなり取って代わられるように感じる。しかし、想定より進化は緩やかに感じる。ただし、新規の会計事務所などが開

設するたびに、最初から AI を導入し、知り合いの税理士との関係性ではなく、インターネットを介して契約を結ぶケースは傾向として顕著に感じられる。

一方、事業承継については、次年度以降のテーマになると感じられる。相続税を猶予するケースなどもあるが、親族ではなく、第 3 者に対しても、猶予もしくは免除の形も検討している最中。これに関しては経産省と財務省が検討している段階である。経産省の提案通りに行くのであれば、同業者や金融機関がやっている相続税対策が無意味になってしまうぐらいのインパクトがある。実際に、経産省の提案通りにはいかないかと思うが、現状として事業承継をしたいができない割合が 6 割ぐらいある。背景としては、10 年前比較し、社長の平均年齢がそのまま 10 歳増えているような状況のため、後継者がいる企業が恵まれているような状況下にある。

また、M&A として、60 代の社長が後継者不在のため、企業を売却したいというケースが増えている。第三者売却が今後も増えていくと考えられる。

□ 武田様

今の石田先生の話は他人ごとではなく自分事と感じている。家族間であっても相続に必要な体力がない企業が燕三条の企業をみても、多く存在し、今後は廃業を余儀なくされることが予想される。

東京で仕事をしていても、学生企業が改めて見直されている傾向を感じる。従来は勢いで起業していたが、ここにきて冷静に企業を捉えている傾向がみられる。

実際の就職に対しても、企業の通知表のようなものとして公表されている比較的雇用者が守られている雇用条件ではなく、ブラック企業や働き方改革などの話を取り沙汰されている中であっても、劣悪とも取れる環境であっても苦勞してでも自分のやりたいところに就職したいと考えている学生が多くなるように感じる。しかし、企業側と就活側のマッチングがうまくいっていない現実もあるため、どのように改善できるのか悩んでいる。

就職状況においては実際に自分が感じていることと、長谷川室長からの就職の状況報告を踏まえ、様々なギャップを感じる。新潟の中でも、NSG グループが抱えている就職状況はかなりのシェアを占めていることを考えても確かな数字のように感じる。その中でも新潟大学は非常に苦戦しているように感じる。実際に県内就職では難航しており、県外就職がより拍車がかかっている。就職の理想と現実のギャップを非常に感じる。報道と、実際の担当者から見聞きしても多くのギャップがあることから、非常に混乱期のように感じる。実際に、石田先生から報告があったように職種も大きく変化している中で、多くの混乱を伴った過渡期にあると思う。NSG グループの中でも分野によってだいぶ違うように感じる。他校と聞いた話と NABI から聞いた話では真逆であった。

さらに東京では就職学生の質が低迷している。特に大手であればあるほど、採用したいけど、採用したらしたで、叩かれるという現状もあるため、大分苦心しているようだ。明確に言うと、サイバーエージェント社はかなり集め方を苦勞している。どのように募集を出しても、やはり質の低迷は否めないようだ。

□ 本間先生

自分と接しているお客様との関係性では、あまり AI の影響を感じないが、ある日突然 AI の普及が訪れるのかもしれない。

れない。

社会保険事務所も東と西が統合するとの情報もある。実際にこの業界も縮小していくように感じられる。

実際のお客様は中小零細企業が多いため、事業承継もケースとしては少ないが、やはりうまくいかない状況であった。

□ 平副校長

人材に対する教育のスタンス、人を育てるという部分をお伺いしたい。

□ 石田先生

大分難しい。NABI から採用した学生も、大学から採用したケースがある。実務に関しては OJT を中心とし、TKC の団体による研修プログラムに参加している。民間資格である巡回監査士などを取得させ、実務部分を補っている。また、コミュニケーションスキルを重視している。実際にお客さんと接するうえで、お客さん目線で、相手の納得を引き出せるようなコミュニケーションスキルを要する場面に帯同させ、実務経験を積ませている。特にファシリテーションスキルを身に付けるような研修など経営塾などにも参加させている。なぜなら、会計事務所のスタッフは、ごく限られた狭いコミュニティの中で生活しているため、人間関係が狭くなる傾向にある。異業種交流会のような場に出ていかなければ、社長業の方々とのコミュニケーションがとれなくなってしまう。社長業の方々から食事などに誘われるような人間になってほしいと感じている。

□ 武田様

コミュニケーションが重要なことを感じている。会計はものすごく大事な要素だと思い、企業内でも会計の重要性を発信している。自社企業においても会計状況はすべて開示している。個人の給料は役員のみだが、それ以外の部分はほぼ開示している。なぜなら会計を知らなければ机上の空論や他人ごとになってしまうように思えるため、自分事に感じられるように発信している。この部分は社員教育の観点からも重要だと感じている。

□ 本間先生

アクティブラーニングのように主体的に発信できるような研修の取り組みを取り入れたいが、なかなかうまく組み込めていない現状がある。

□ 平副校長

企業訪問などを通して、多くの方々と接し、コミュニケーションをとる機会をつくとどのような効果が期待できるでしょうか。

□ 石田先生

営業を経験してきた社員はしゃべることができる。やはり経験値の積み重ねは大きいと感じる。社長といくら話しても

共通の話題をつくることが重要だと思う。

業務として触れ合う時間以外にも、お客様の本業の時間に自分のオフの時間を率先して使える社員が伸びるケースが多い。

□ 本間先生

営業スキルというわけではないが、やはり創業時の話題を投げかけることで、創業精神、苦楽を共有できるため、効果が大いと感じる。実際に中小零細企業と関わっている中で、働き方改革やキャリアアップとして国が推進していることもあり、助成金が出るため、企業が取り組んでいるケースが見られた。

□ 平副校長

※ 1

□ 石田先生

※ 2

□ 武田様

※ 3

※ 1～3については、中小企業会計の講習会参加のやり取りのため、割愛致します。

以上